

平成18年度 大学院人文科学府修士課程[社会人特別選抜]第2期入学試験問題

小論文（芸術学）

近代的藝術観の思想的枠組みを整備した一人とされる18世紀フランスの思想家シャルル・バトウーは、感覚的快を与え、かつ「有用性」を持たないものを“beaux arts”（美しい技術＝「藝術」）とし、「有用性」を持つ建築などを除外した。今日、「藝術」の領域が拡大し、商用デザインやファッション、メイクアップなどの隣接領域との関わりが深まる中で、「藝術」とこれらの周辺ジャンルを広く「感性的形象領域」として総合的に捉えようとすることは可能だろうか。以上の問題に関して、「有用性」「価値」をキーワードとし、具体的な事例を参照しつつ自由に論じなさい。